

# 開催報告

安全はもちろん、美味しさでも選んでほしいから

## ふくしまの今を知る講座 & 美味しさ試食会



開催日時：11月16日（月） 10:00~12:30

会場：コープみらいプラザ新中野 4階会議室

参加：89名

コープみらい77名 東京都生協連7名

福島生産者4名 事務局1名 他



もともと自然と農業の恵が大変豊かな福島に2011年3月、突如ふりかかった未曾有の災害を乗り越え、再生に向かっている福島。講座では福島の今を知るとともに、生産者の思いや安心への取り組みを「知り」「伝える」ことの重要性を学ぶことができました。参加者の皆さんの応援したい気持ちに答える試食や販売も用意しました。

### ◆◆◆スケジュール◆◆◆

- 10:30 開会
- 10:35 講演&質問タイム
- 12:10 試食&販売
- 13:00 閉会

## 風評対策・新たな産地形成に向けて一発信から伝えるへー

講師：小山 良太 氏

（福島大学経済経営学類教授・うつくしまふくしま未来支援センター副センター長）



### 消費者のイメージ

福島県は四国と同じくらいの面積があり、会津地域は放射性物質の影響がなかったにも関わらず、福島県から遠い消費者ほど、原発事故後、放射性物質で福島全域が汚染されたというイメージを持っていた。福島に近い地域の茨城や群馬の消費者は自分の県が放射性物質で汚染されたのではないかと不安を持っている。

### 消費者が求めるもの

・「**イメージ戦略**」よりも「**安全の根拠**」をきちんと示すこと

何が何でも危ないという人は少ない。消費者は安全の科学的根拠を求める。

### 協働の取り組み

生協や農協他さまざまな協同組合間の協同活動を通して、さまざまな支援活動が行われた。

- ・福島のごども保養プロジェクト
- ・土壌スクリーニングプロジェクト
- ・地産地消における安全性確保
- ・影膳調査
- ・損害調査など



### 震災以降の農産物価格の推移



#### 梨・モモ

・他県より福島県産は未だに安い

#### キュウリ

・気象次第で価格がもどることもある

#### 最近の東京市場

・牛肉卸売価格は回復傾向にあるものの、福島県産は低い水準

東北から離れて暮らす人々ほど東北の産地の評価が低くなる。元の価格に戻って初めて復興したといえる。

### 4段階の安全検査

- 1 農地：全農地の放射性物質分布マップ作成  
**実態に応じた対応を明確に！**
- 2 植物体：科学的な分析  
**放射性物質の吸収を抑制！**
- 3 農産物：食品モニタリング検査  
**関係機関の連携で精度向上！**
- 4 食品：消費地検査  
直売所、公民館、小学校など  
**自分の目で確かめられる！**

## 震災5年目の課題

- ◆風評問題①事故直後のイメージが未だに定着
- ◆風評問題②福島だけ体系立った高レベルの検査
- ◆産地の取り組み
  - ①2014 年度検査結果：米の基準値超えがゼロに。
  - ②現状を生産者自身が正確に把握する必要がある。
- ◆流通段階
  - ・科学的にリスク軽減（安全）が証明されたとしても社会が受け入れるかが問題
  - ・適切な情報提供（低減対策・全量全袋検査の必要性）



## 発信から伝えるへ

地震・津波による被害に加え、原子力災害に見舞われた福島県は、「福島の食と農の再生」のため、実直にさまざまな取り組みを進め、それを発信してきた。しかし、発信しても検査をしていることを知らないと答える消費者が多く、伝わっていないことが見えてきた。福島の生産者や生協と協働で自分達が取り組んできたことから自信を持って言える。「科学的なデータに基づいて、汚染されていない生産物が流通している」

**検査をしていることがちゃんと伝わるのが大事！**



# 試食と交流 販売 ミニ「道の駅」を開催しました



## 販売

地産地消ふくしまネットの 朴さんより、福島県自慢の加工品と果物の説明をしていただいた後、試食と販売を行いました。



ストレート果汁  
100%の桃ジュースはまるで桃を食べているかのよう



長ネギ、キャベツ、人参、シイタケ、小松菜、ブロッコリー、ニラなど朝届いたばかりの新鮮野菜♪

被災した女性農業者＝「かーちゃん」たちが地域の特産品や加工食品をつくり販売しています。「かーちゃんのか」で地域を元気にして地域の復興を目指しています。絶品キムチは福島でもすぐに完売する人気の品です



## 試食と交流



あちこちから  
美味しい〜〜！  
の聲が。



**完売  
御礼**

用意した野菜・果物・かーちゃんのかプロジェクト商品は完売しました♪

## ◆アンケートより抜粋 ◆（アンケート提出65枚）

- ・元々、あまり産地を気にしていませんでしたが、今まで以上に安心して福島の物が口にできると思った。子供が小さく周りに少し気にしているお友達がいるので、今日のことを伝えたい。
- ・スーパーなどで福島産の作物は検査をしてあるとわかっていても避けていたが、今日お話を聞いて、本当に一から検査しているのがわかって、安心して購入出来そうと思った。
- ・福島のお米、全量検査をしていること、もっと多くの人に知ってもらい、（口コミが一番）安心して食べてもらいたいと思っていました。
- ・生産者の努力が社会に伝わっていないことを残念に思う。出来るだけ多くの方に伝えたい。



「汚染されていない生産物が流通していることを科学的なデータに基づいて自信を持って言える」ということがその熱意とともに伝わる内容でした。その科学的な根拠を調査するボランティアにコープの職員も多く参加しています。また福島県産の加工品や果物のおいしさを味わい、より一層理解が深まる講座となりました。



地産地消ふくしまネットとは…？ 福島県生協連、JA福島中央会、福島県漁連、福島県森連、福島大学協同組合ネットワーク研究所らが筆頭会員の福島独自の協議会。生産者・消費者・研究者らが集まり、持続可能な地域社会を協同組合によって作ろうという目的で発足。